

西光

第11号

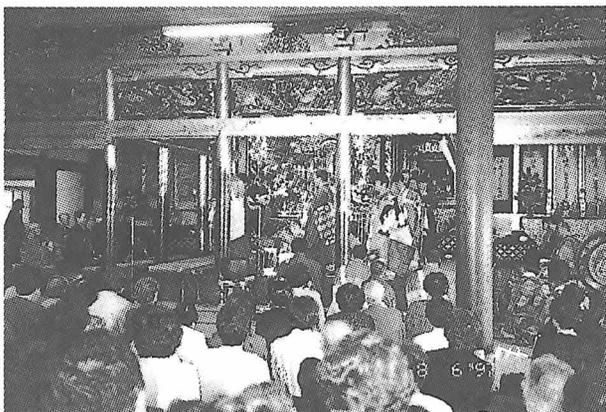
百橋山 西光寺
高岡市京町一〇一二五
電話(〇七六六)三二二九七
FAX(〇七六六)三二二三七〇
平成九年九月二三日

《蓮如上人五百回大御遠忌法要》

去る六月八日、梅雨入り間近であったが、幸いにも好天に恵まれ、蓮如上人五百回大御遠忌法要は、境内には大勢の参詣の人にあふれ、稚児のかわいい姿や、獅子舞、やらやらの賑やかな歓声に包まれ、仏縁に感謝する一日であった。

前日の七日(土)には地場産センターにおいて、夕方6時から「仏教文化講演会」を開催し、門徒の方々は勿論、近くの人や遠方からも老若を問わず、二百名を越える聴衆が会場を埋め尽くした。殊に若い方の参加が多く、広く門戸を開放して、このような機会をもったことの意味が確かめられた。元金沢大学付属高校の松田章一氏の「加賀の三羽鳥の信仰」と題して、次いで元富山県教育長の楠頭秀氏が「親鸞と蓮如」と題して、最後に東山浄苑理事長の大谷暢順氏が「蓮如―お文の世界」と題して講演を行った。三氏の話は、それぞれ自らの体験や思索に基づいた、信仰、信心、念仏、親鸞、蓮如、そして我々、私(自分)へと関わる熱いこもった真剣なもので、会場を埋めた聴衆は二時間近い間、吸い込まれるように聞き入っていた。最後に総合討論「北陸の真宗と蓮如」として三氏に一言づつコメントしていただいた締めくくった。後日様々な方々から、講演会にたいする賞賛とねぎらいの言葉を頂いたが、貴重な経験として、三氏の講師のお話しに対して、聞く人それぞれに感心したり興味を惹かれたりする反応が各自みな異なるということであった。人の心や気持ち、信仰や生い立ちはみんな違って、大勢の方が一つの方向に耳を傾け、心を寄せ合って参加出来るというのは素晴らしい。講演会が終了して、興奮醒めやらず、みんなの笑顔に本当に明るい灯火が灯っているのを感じた。

八日(日)は朝から問題なく晴れ、稚児行列や獅子舞、やらやらも大丈夫であった。朝の勤行の後、帰敬式(おのみそり)、大谷暢順師によるお言葉、そして下二上青年団による獅子舞、大浦講中による「やらやら」の奉納があり、境内は歓声とどよめきが沸き上がり、満願餅がまかれた。午後はいよいよ稚児行列を先頭に法要の開始であった。180人を越える稚児とご両親の笑顔が素晴らしい。稚児衣装が光に輝いて可愛らしく、仏縁によって祝福される有り難い瞬間を競って記念写真やビデオに記録していた。法要は親戚と市内の法中方30名を越える僧侶方によって厳肅な中に執り行われ、蓮如上人五百回大御遠忌法要の結願を締めくくった。



《蓮如上人五百回大御遠忌法要 6月8日》
写真提供 大阪府羽曳野市 五十里久仁三氏



《仏教文化講演会 6月7日》
写真提供 大阪府羽曳野市 五十里久仁三氏

《旅と人生》

法然 元久2年(1205)専修念仏停止を求めた興福寺奏状によって弾劾され、さらに建永2年(1207)の法難によって讃岐へ流罪となる。75才の時許されて京都に戻り、80才で没。
親鸞 建永2年(1207)35才の時、法然門下であった親鸞は建永の法難で、死罪の宣告を受け、関係者の努力で流罪となり、越後へ。建暦元年(1211)39才の時赦免となる。しかし京都には戻らず建保2年(1214)41才の時常陸へ、そして関東各地を流浪、布教し、教えを確立し、教行信証を著す。ようやく62才の頃京都に帰る。82才ころ家族を越後へかえし、弘長2年(1262)11月28日90才で没。

蓮如 長祿元年(1457)43才で本願寺を継ぐ。寛正6年(1465)51才の時比叡山の大谷本願寺の破却によって、京都東山を逐われ、文明3年(1471)57才の時越前吉崎へ移住、吉崎御坊を建て、全国各地を教化。文明7年(1475)61才の時吉崎を出て、摂津・河内・和泉で布教、文明12年(1480)京都山科に本願寺を再興、明応5年(1496)82才の時大阪石山(現在の大阪城)に石山本願寺を建てる。85才にて没。

こうして見てみると、本師法然、開祖親鸞、蓮如もいずれも長い間、しかも各地を流浪の旅をしていることがわかる。心ならずも旅もあれば、情熱をもって駆け回る旅もある。しかし今日と違い交通不便な、自らの脚で歩くしかない時代にあつて、根気よく旅を続けた先人の労苦を思うと頭が下がる。しかも結構長生きで、波乱に富んだドラマチックな人生である。三人とも80才を越えてなお矍鑠として活躍した。高齢化社会だの、老人介護や痴呆の問題などと云っている現代に比べ、なんと生き生きしていることか。旅の中に出会いがあり、また別れもあった。旅と人生ではなく、旅の中に人生があつた。今日の我々はあまりにも人生行路を旅することに疲れているのであろうか。これら先人達の足跡を訪ねて、「浄土真宗ゆかりの四十八ヶ寺巡拝」の朱印帳を作り、訪ね歩くことを計画している。北陸を起点に、関東・甲信越・東海、そして関西へと及ぶ。やがては仏教伝来の道とたどる、朝鮮、中国、インドへの旅も決して夢ではない。

《標語》

「無倦(むけん)」

倦むこと無し。あきることがない。怠ることがない。「大悲無倦常照我」(正信偈)の一節で、如来の大悲は倦むことなく常に私を照らしたもうということ。禅宗の語録集を見ていたら、この句があつた、よく見ると、出典は正信偈と書いてあつた。禅宗の人たちも親鸞の教えの深さに共感していたのであろう。禅宗の絶え間ざる自己研磨も、親鸞の絶対他力の本願念仏の教えも目指す所は一つと云うことか。

《行事予定》

一月一日・二日・三日	修正会		
一月八日	法話会(初お講)	[講師]	教願寺 釜田恒明師
三月八日	法話会	[講師]	教願寺 釜田恒明師
毎月八日	法話会	[講師]	教願寺 釜田恒明師
七月十四・十五日	お盆(新盆)		
八月七日・八日	永代祠堂経会	[講師]	光専寺 葉室文昭師
八月十四日・十五日	お盆(旧盆)		
十月八日・九日	報恩講	[講師]	長福寺 藤井 乗
十一月八日	法話会(終お講)	[講師]	光専寺 葉室文昭師
十一月二十七日	御正忌	[講師]	願浄寺 嶮 秀誠師
十二月三十一日	除夜勤行・除夜の鐘		

《御遠忌法要ビデオについて》

さる六月八日に行われた蓮如上人五百回大御遠忌法要と前日の仏教文化講演会のビデオがあります。ビデオ撮影の専門家(氷見市・大浦・浦風昭一・ショウ・ワン)による鮮明な画像で、獅子舞・やらやら、また稚児行列も完全収録されています。試写やご購入の方は西光寺までお申し込み下さい。